

2022年3月期 決算説明



2022年5月13日 クボテック株式会社

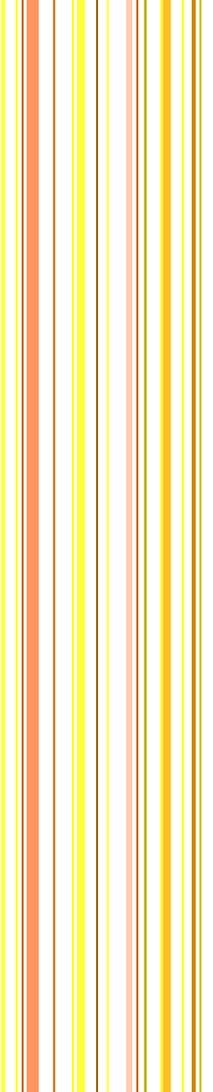
目次

1. 2022年3月期 連結業績概況
2. 2023年3月期 計画

1. 2022年3月期 連結業績概況



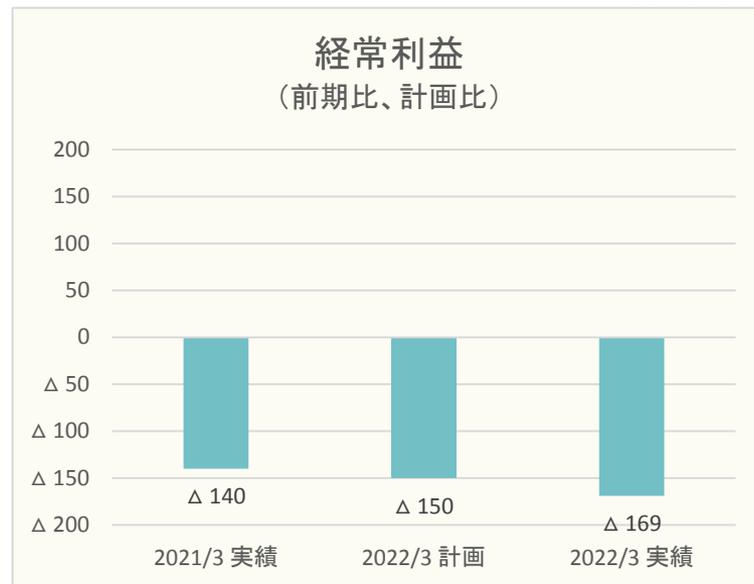
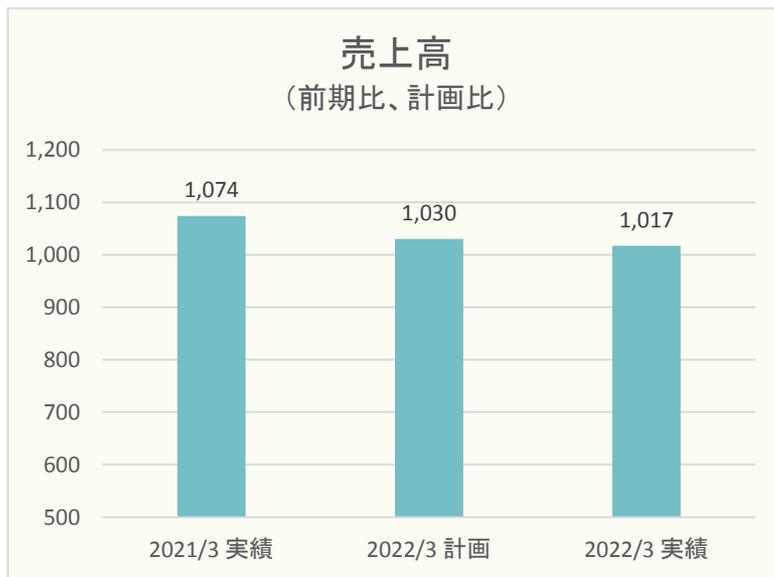
KUBOTEK



2022年3月期 連結業績概況

- コロナ禍で事業環境は依然厳しい状況、業績は低調
- 売上目標の未達で事業構造改革の効果も現状では未発現

(単位: 百万円)



- 客先設備投資の影響、営業活動等の制限で前期比減収、依然低水準
- 損益は減収の影響などから、経常赤字を継続

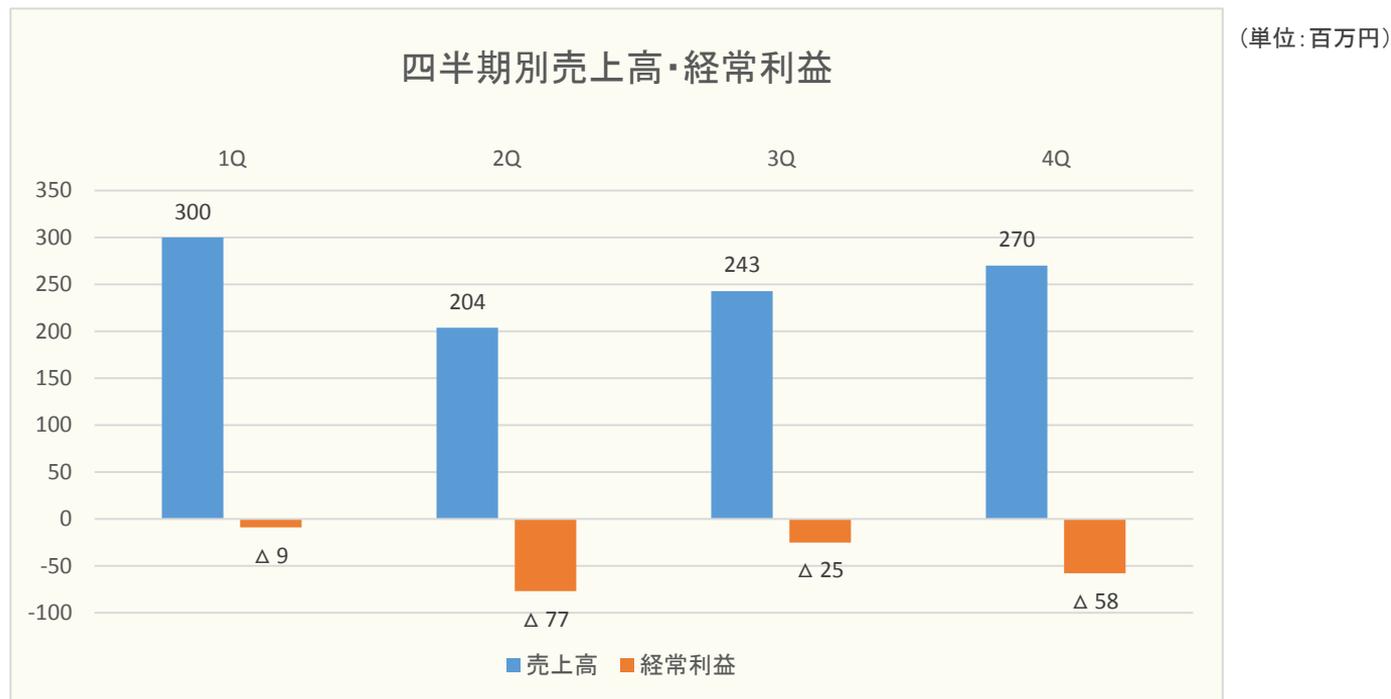
(単位:百万円)

	2021/3 実績 (A)	2022/3 10/29公表修正計画 (B)	2022/3 実績 (C)
売上高	1,074	1,030	1,017
営業利益(△損失)	△ 131 (△12.2%)	△ 145 (△14.1%)	△ 175 (△17.3%)
経常利益 (△損失)	△ 140 (△13.0%)	△ 150 (△14.6%)	△ 169 (△16.7%)
当期利益(△損失)	△ 116 (△10.8%)	△ 95 (△9.2%)	△ 121 (△11.9%)

前期実績比 増減額 (C-A)	計画比 増減額 (C-B)
△ 57	△ 13
△ 44	△ 30
△ 29	△ 19
△ 5	△ 26

四半期別売上高、利益推移

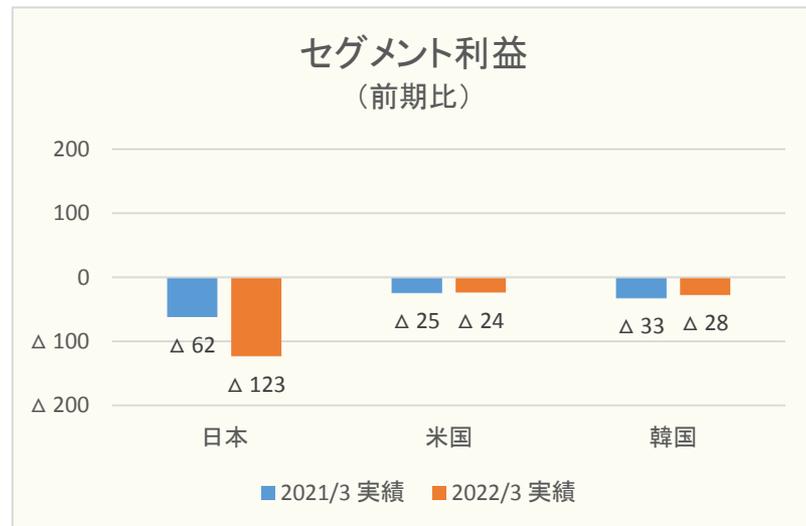
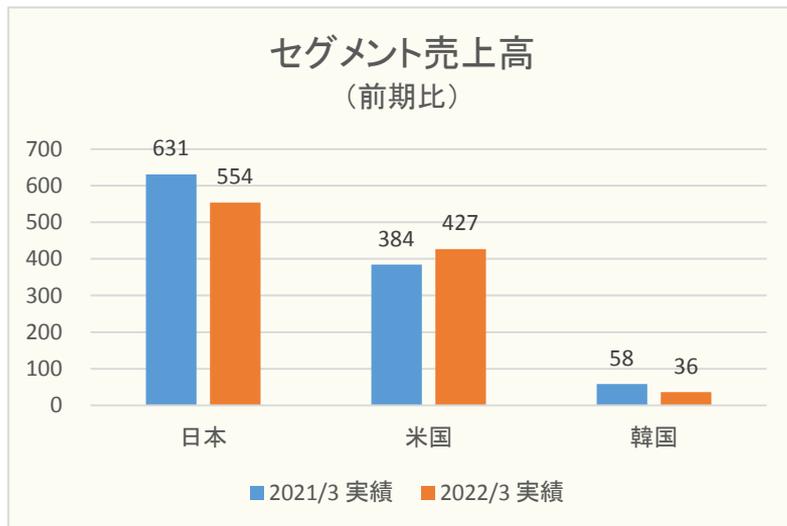
- 1Q、2Qは、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響で売上低下
- 3Q、4Qは、客先都合による工期延期などで、売上は低水準で推移



セグメント別売上高、利益

- 日本では、画像処理外観検査装置の売上が翌期に延期、前期比減収減益
- 米国では、製品保守で一定の収益確保、新製品3次元比較検証ソフトは伸び悩み
- 韓国では、韓国大手FPDメーカー向け画像処理外観検査装置関連、納期延期で減収

(単位: 百万円)



貸借対照表

	2021/3 期末 2021年3月31日	2022/3 期末 2022年3月31日	前期実績比 増減額
流動資産			
現預金	1,777	1,413	△ 363
売上債権	436	198	△ 237
棚卸資産	121	272	150
その他	△ 5	16	△ 21
固定資産	201	191	△ 9
資産計	2,531	2,091	△ 439
流動負債	998	674	△ 323
固定負債	415	440	24
負債計	1,413	1,115	△ 298
資本金	1,951	1,951	-
利益剰余金	△ 794	△ 915	△ 121
その他	△ 40	△ 59	△ 19
純資産計	1,117	976	△ 140
負債及び純資産合計	2,531	2,091	△ 439

(単位:百万円)

- 総資産は、
前期末に比べ在庫は増加したものの
現預金、売上債権の影響で減少
- 負債は、
前期末に比べ借入金の返済などで減少
- 純資産は、
前期末に比べ、当期損失の計上などで
減少

キャッシュ・フロー計算書

- 営業キャッシュは、売上債権の回収と減価償却費の計上などで、5千万円の収入
- 投資キャッシュは、ソフトウェアの取得などで1億8千万円の支出
- 財務キャッシュは、銀行への借入金返済の結果、2億6千万円の支出

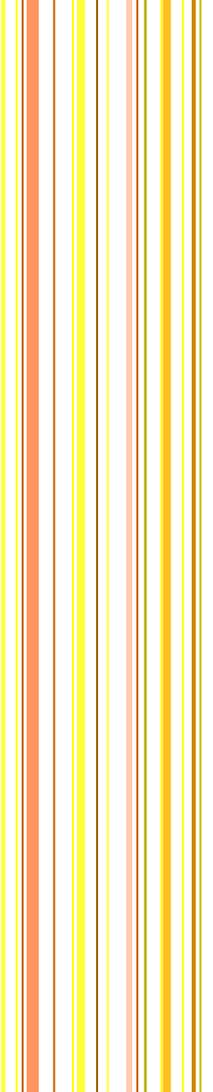
(単位:百万円)

	2021/3 実績	2022/3 実績
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	232	51
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 166	△ 179
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 164	△ 258
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	22
V.現金及び現金同等物の増減額	△ 98	△ 363
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,843	1,745
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,745	1,381

2. 2023年3月期 計画



KUBOTEK



2023年3月期 連結業績計画

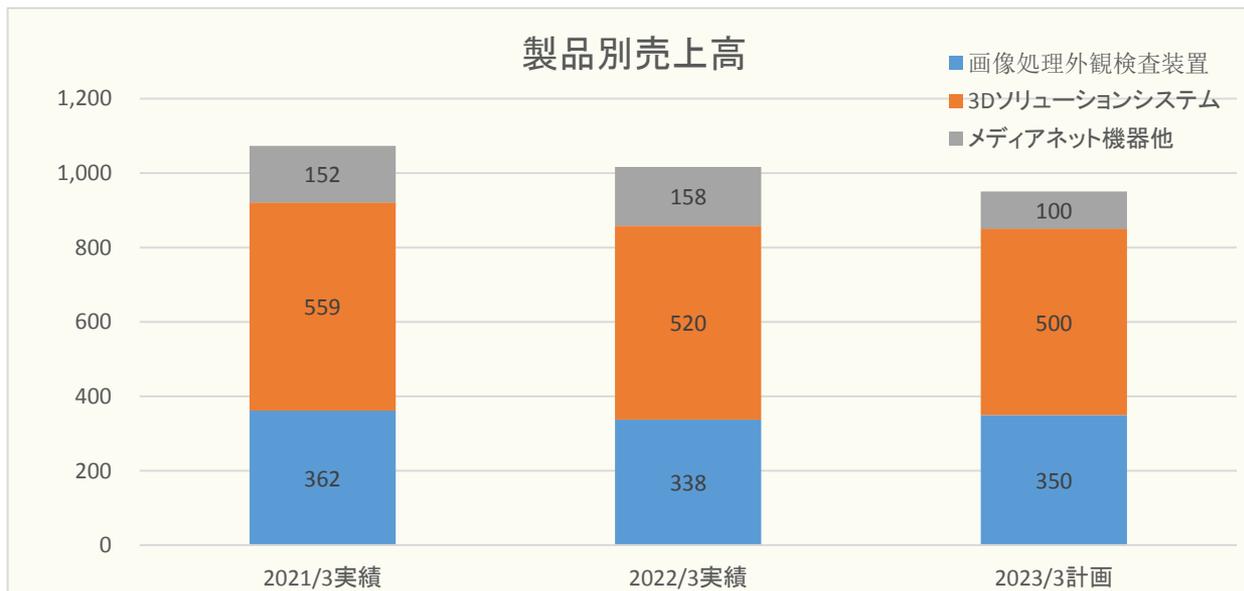
- コロナ禍、不透明な設備投資動向、部材調達の制約など厳しい事業環境が継続
- 業績回復に時間を要し、低調な受注状況から売上は減少、経常赤字継続
- 既存事業の収益回復、新製品の販売拡大に注力、早期黒字化を目指す

(単位:百万円)

	2022/3通期 実績	2023/3通期 計画	前期実績比 増減額
売上高	1,017	950	△ 67
営業利益(△損失)	△ 175 (△17.3%)	△ 290 (△30.5%)	△ 115
経常利益 (△損失)	△ 169 (△16.7%)	△ 300 (△31.5%)	△ 131
当期利益(△損失)	△ 121 (△11.9%)	△ 315 (△33.2%)	△ 194

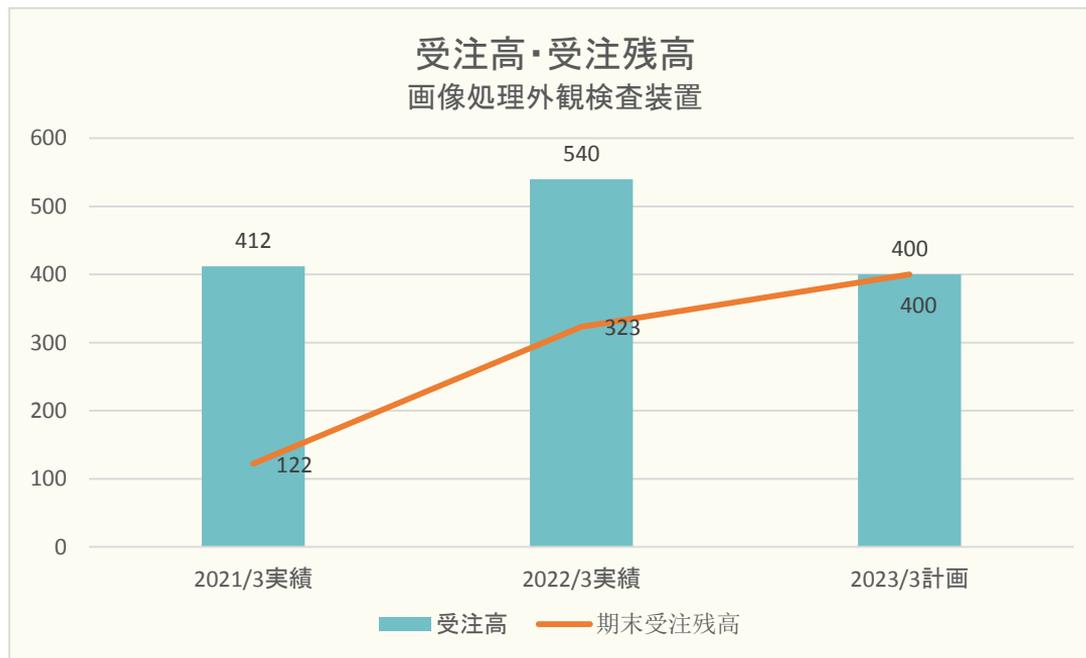
製品別売上高構成比

- 画像処理外観検査装置は、機能性フィルム向け装置など拡販、収益回復を図る
- 3Dソリューションシステムは、3次元比較検証ソフトウェアなど新製品販売に注力
- メディアネット機器は、部材調達が長期化、公共関連の監視用機器で売上確保



受注高・受注残高の推移

- 受注、受注残高は、依然低水準で推移
- 液晶向けに加え機能性フィルム検査装置などの拡販に注力



キャッシュ・フローの推移

- 営業キャッシュは来期赤字となるものの、当面資金繰り懸念はない
- 新製品などへの開発投資は継続、資金の有効活用を図る

